

# 平成26年度学校自己評価システムシート (国際学院中学校高等学校)

目指す学校像	建学の精神「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」を身に付けた人材の育成
--------	----------------------------------

重点目標	1 豊かな人格形成 2 確かな進学指導 3 選ばれる学校づくり 4 国際理解教育(ユネスコスクールとして)の推進
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者評価委員	4名
	第三者評価委員	4名
	事務局(教職員)	14名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標				年度評価(2月23日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	○建学の精神「誠実」「研鑽」「慈愛」「信頼」「和睦」のもとより具現化するために、教育目標・教育方針「礼を尽くす」「場を清める」「時を守る」を実行している。また、生活の重点目標として「身だしなみ」「話を聞く」「けじめ」等、人間教育に重点をおいた豊かな人間性を備えた【人づくり教育】を実践している。	○生徒指導の充実 ○部活動の充実 ○学校行事の充実 ○教育相談の充実 ○人権教育の充実 ○地域、関係機関との連携	①「あいさつ運動」「ノー遅刻DAY」「頭髪・服装」等の基本的生活習慣に係わる指導の徹底 ②部活動、学校行事への積極的参加の奨励 ③生きた教育相談、家庭との連携、人権教育等の講演実施 ④問題行動の未然防止、天災に備え、地域・各関係機関との連携の強化	①挨拶、時間厳守、頭髪・服装等ができていないか。 ②部活動の参加状況および実績状況。また、生徒主体での学校行事ができていないか。 ③教員、生徒、保護者の信頼関係と、いじめ防止・早期発見・対処ができていないか。 ④日常的に学校開放、防火防災訓練、問題行動の未然防止ができていないか。	○基本的生活習慣に係わる指導の徹底により、部活動の加入率の向上と学校行事の活発化につながった。 ○生きた教育相談・人権教育等の講演実施、多岐にわたる問題・天災に備え、地域・関係機関との連携を整え万全の体制を期している。	B
2	○国公立大学や難関私立大学への合格に向け、授業の質向上や、朝・放課後などの学習活動を行っている。現状での課題は、授業力の向上を図るとともに、現在の取り組みを精査してより効果的なものに全教員が力を注げるようにすることである。	○国公立・難関私大への合格者延べ15名以上 ○有名大学への合格者延べ20名以上	①進路活動の見直しに対する意識向上 ②第3学年との連携 ③模試の結果を分析、成果と改善点を明確にし、各教科へのフィードバック ④教科指導の向上推進	①進路指導の見直しを持つことができたか。 ②学年会議、進路指導部会議で情報交換できたか。 ③模試の結果から各教科の目標を明確にし、達成に向けて行動することができたか。 ④KOKUSAI Methodの徹底を図れたか。	○国公立・難関私大合格者が現在8名、有名私立大学18名である。一般入試の結果次第であるが、おおむね達成できる見込みである。	B
3	○本校の教育について積極的にPRした結果、説明会参加者数の増加につながっているが、より分かりやすい情報発信で周囲の期待に応えていく。	○入学定員充足 ○学校説明会の参加者数 ○外部会場相談会等の参加者数	①学校案内、ポスター、チラシ等の制作 ②HPの更新 ③中学校訪問、塾訪問 ④学校説明会の実施 ⑤外部会場相談会等への参加	①学校案内等について受験生、保護者、中学校、塾の評価はどうであったか。 ②HPの更新頻度は適切であったか。 ③中学校や塾に対して適切な情報提供ができたか。 ④説明会の内容は充実していたか。 ⑤外部会場相談会の参加者が増えたか。	○学校案内等は概ねよい評価を得た。 ○HPの更新を適宜行うことができた。 ○訪問の予定校数を訪問できなかった。 ○生徒の司会や発表を取り入れた学校説明会を実施することができた。 ○外部会場相談会でも昨年を上回る参加者を得た。	B
4	○ユネスコスクールとしてESD(持続発展教育)を推進しており、特に国際理解教育と環境教育を中心に取り組んでいる。英語教育についても、GTECや英検での成績向上に向けて取り組んでいる。一方、ESDの取り組みが学校行事化することで、ESD自体への理解が不十分なまま取り組む場面が見られる点が課題である。	○英語教育の充実 ○ESD(国際理解教育・環境教育)の推進	①英語を学ぶ機会を充実させる(英検、GTEC、全校リスニング、英単語グランプリなど) ②国際理解を深める機会の充実(世界異文化学習会・異国料理学習会・留学生受け入れ、海外生徒との交流など) ③環境学習の充実(エコキャップ運動・古着回収運動)	①各種検定試験の受検者、合格者の増加につながったか。 ②学習会に向け目的やESDへの理解を促し、海外研修に向け意欲を高めることができたか。 ③活動について地域に周知し、連携して回収することができたか。	○「ユネスコスクールESD優良実践事例集」選定、留学生2名、シンガポール派遣、インドネシア来校、マレーシア王立学校教育提携。 ○エコキャップ202,960個回収(累計755,710個)。 ○1,490着の子供服回収(在校生、近隣の方々、伊奈中学校)。	B

学校評価	
実施日	平成27年2月23日
学校評価委員からの意見・要望・評価等	
<p>授業見学をした際に、生徒たちは大変落ち着いた姿勢で授業に取り組んでおり、非常に良かった。国際学院の生徒たちは真面目であり、諸活動に意欲的に取り組んでいる様子が窺えた。</p> <p>進路実績が着実に向上しているのので、今後は更なる発展が期待できる。KOKUSAI Methodを更にブラッシュアップさせて今後の進路実績向上の牽引役を担ってほしい。</p> <p>生徒募集については、学校全体の取り組みとして力を入れている様子が窺えたが、今後は中小の塾を大切にするなど、よりきめの細かい募集活動を展開してほしい。</p> <p>ユネスコスクールとしての取り組みが学校の教育の核となっているので、英語教育が生徒全体に行き渡るように努力を継続してほしい。授業力の向上と併せて英語教育の充実に取り組んで、国際学院の強みとなることを期待している。</p>	